公益財団法人西原育英文化事業団主催

「水俣病」は今日、どのように捉えられるのか？

～「水俣病」への複合的アプローチの試み～

2025
1/26（日）

13:00～15:00
Zoom開催

私たち、西原育英文化事業団（以下NCF）は、奨学金制度、助成金等により、広く環境問題研究に取り組む学生や大学等への支援を展開してまいりました。

今回、こうした取り組みの一環として、水質衛生学、環境微生物工学が専門の片山浩之先生と哲学、現象学が専門の宮田晃碩先生の2人の研究者をお招きし、異なる視座、視角からの「水俣病」への複合的なアプローチの可能性をご紹介いただきます。また、多様な分野の関係者からのコメント、ディスカッションを通じ、環境問題を複合的に捉えることの意義を感じるきっかけとなることを目指します。

プログラム

1.基調講演

（1）水俣病と「知識」の問題
- 「「被害者」の語りは何を意味するのか」 -

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻
比較文学比較文化研究室

助教 宮田晃碩

（2）水俣病における研究者の役割

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻

教授 片山浩之

2.コメント

コメンテーター
NCF奨学生／OB・OGなど
（詳細は、2枚目をご覧ください。）

3.ディスカッション

ファシリテーター
河野有吾（株式会社エックス都市研究所）

参加申込は、以下のURLからお願いします。

https://forms.gle/5ZRR3Y7SmaHrUZZR9

締切：2025年1月24日（金）

主催者挨拶

水俣湾での工場廃液に起因する有機水銀中毒症、いわゆる「水俣病」は、日本における公害被害の原点であり、環境に係る仕事をする者、学ぶ者にとっては避けて通ることのできない問題です。

私たちNCFは、多様な専門分野や所属、世代などが異なる様々な会員の交流促進を期待して、『さまざまな環境問題研究のための人と人をつなぐプラットフォーム』を設立・運営しております。

今回、そのプラットフォームを中心に、水質衛生学・環境微生物工学、哲学・現象学という異なる専門のお二人の研究者をお招きし、それぞれの視座、視角からの「水俣病」への接近を試みます。この試みは、なんらかの答え、解を求めるものではありません。異なる研究領域からのコメント、そしてディスカッションを通じ、「水俣病」、環境に関する問題を複合的に捉えるきっかけを提供できればと考えております。

公益財団法人西原育英文化事業団　代表理事　　西原 彰一

講演者紹介

東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻

教授 片山浩之

水中ウイルス検出法の開発、水中病原微生物の存在実態調査などを手掛け、東南アジアをはじめとした途上国の水と衛生に関する研究も実施してきている。

2008年採択の環境リーダー育成プログラムにおいて、現地合宿を含む体験型教育プログラムMinamata unitを主催した。

2016年から2年間、日越大学環境工学プログラムにJICA専門家として派遣された。

東京大学大学院総合文化研究科 超域文化科学専攻
比較文学比較文化研究室

助教 宮田晃碩

博士（学術）。専攻は哲学。マルティン・ハイデガーの哲学や石牟礼道子の文学を手がかりに、言語と共同性の関係について研究している。

コメンテーター

- 吉田綾（東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 准教授）
- 丁青（水ing株式会社 基盤技術研究センター 研究員／中央大学研究開発機構 客員研究員（機構助教））
- 山本奈央（ニューヨーク大学ランゴーン医療センター ポスドク研究員）
- 服部久美恵（東京大学大学院法学政治学研究科 特任研究員）
- 安河内隆仁（北海道大学工学院環境創生工学専攻 廃棄物処分工学研究室 博士課程）

主催：公益財団法人西原育英文化事業団
協力：東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属 共生のための国際哲学研究センター（UTCP）他